

国語科学習指導案

令和7年10月27日(月)

授業者

指導者 教諭

1.日時 令和7年10月27日(月)第2時限(9時40分～10時25分)

2.学級 5年2組(男子15名 女子18名 計33名)

3.場所 5-2教室(南棟2階)

4.単元名 熟語の構成を理解しよう

教材名 「熟語の構成と成り立ち」

5.単元目標

- ・熟語の構成、変化についての理解を深め、語句の由来、成り立ちなどに関心を持つことができる。
- ・熟語の構成をもとに「なぜそういう意味になるのか」を考えることができようになり、文脈や使われ方に注目して、意味の違いを自分で判断できるようになる。
- ・熟語に親しみを持ち、生活や読書の中で使われる熟語に興味をもつ。

6.指導にあたって

(児童観)

本単元では主に二字熟語を扱うため、これまでの漢字学習とのつながりを意識して展開していきたい。特に二字熟語の構成については、四年時に「じゅく語の意味」で学習している、ここでは再度その知識を確かめ、実際に活用できる知識・技能として二字熟語への理解を深めるようにしたい。また、ここでの学習は、六年「三字以上の熟語の構成」において、三字以上の熟語の学習をする際に生きてくる。

本学級では発言は一部の児童に限られている。しかし発言をしない子の多くは、ノートやワークシートに自分の考えを書くことができる。そのため、頻りにグループワーク、交流の機会を設けて、発言や発表をしないとしても、自分の考えを伝えることができるような授業作りを行っていく。

(教材観)

本教材「熟語の構成と意味」は普段生活するときや、文章を書く時などに目にする熟語の構成に注目し、その構成の仕組みを考え、分類することで熟語の構成、意味についての理解を深めることができる教材である。熟語は、単に二つ以上の漢字を合わせた言葉ではなく、「似た意味の漢字の組み合わせ」「意味が対になる漢字の組み合わせ」「主語と述語の関係」「修飾と被修飾の関係」「打ち消しの関係」

など多様な型があり、それぞれの漢字の意味が関係し合っ新しい意味をつくり出す点に特徴がある。この構造に気づくことは、語彙の理解を深めるだけでなく、読解力や表現力の基盤を築くことができる。

学習を通して、児童が「漢字どうしの関係を考えると意味がわかる」「同じ言葉でも文脈で意味が変わる」といった気づきを持ち、熟語の成り立ちや使い方に関心を広げていくことが、この教材のねらいである。

(指導観)

本単元では、熟語の構成と意味を理解することを通して、児童が漢字どうしの関係を考えながら言葉の意味をとらえる力を育てることをねらいとしている。一時間目では、「修飾・被修飾の関係」「打ち消しの関係」、そして文脈によって意味や読みが変わる熟語を扱い、熟語の多様な構成に気づかせる。この際、全ての熟語の構成をまとめて行ってしまうと、児童が混乱してしまう可能性があるため、熟語の成り立ちのパターンを一時間目と二時間目で半分ずつに分けて行っていく。一時間目の学習の最後に行う「熟語クロスワード」では、複数の熟語を関連づけながら考える活動を通して、構成の違いを整理することができ、次の活動への意欲を高めることもできる。

二時間目では、前時の振り返りをもとに、「似た意味の漢字の組み合わせを持つ熟語「対になる熟語」「主語述語の関係にある熟語」を学習する。これらの学習をもって本単元の熟語の成り立ちのすべての型を学習できたことになる。また、学習の後半に行う「熟語パズル」では、楽しさを感じながらも、意味の関係を素早く判断して反応する活動を通して、理解を定着させることをねらう。指導にあたっては、活動が単なるゲーム的な楽しさに終わらないよう、「なぜその熟語がその構成になるのか」「意味はどのようにできているのか」を意識させる工夫を大切にしていく。また「熟語パズル」を行う際は、日常生活や教科書などで出会う身近な語を中心に選定することが望ましい。活動の振り返りでは、児童が「熟語の面白さ」「漢字どうしの関係」について語れるようにし、言葉の構造を考える楽しさを感じ取れるよう支援していきたい。

7.単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
熟語の構成を理解し、説明できるようになる。	熟語を構成する漢字同士の関係や文脈から、意味や読みを考え、自分の言葉で説明したり分類したりできる。	①熟語の成り立ちや意味の広がりに関心をもち、活動に意欲的に参加している。 ②熟語の持つ構成の違いを理解しようとしている。

8. 本時の目標 (2/2)

熟語を構成する漢字どうしの関係に着目し、熟語の意味を正しく理解するとともに、熟語パズルを通してその面白さや使い方に気付き、友達と関わりながら考えを広げることができる。

9. 指導計画

時	学習活動
1	<p>今まで学習した熟語について思い出し、熟語の構成に着目し漢字どうしの関係について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の漢字を使った熟語を想起し、構成のちがいに気付き、修飾・被修飾、打ち消しの関係を例で確かめる。 「風車(かざぐるま/ふうしゃ)」など文脈で意味が変わる熟語を学ぶ。 熟語クロスワードに取り組み、構成を確認しながら楽しく定着を
2 (本時)	<p>熟語の構成(似た意味・ついになる・主語述語)に着目し、意味のつながりを考えながら理解を深め、言葉の面白さに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の内容を振り返り、今日の学習課題を確認する。 提示された熟語を分類し、構成のちがいを考える。 熟語パズルを通して、構成と意味を楽しみながら確認する。

10. 板書計画

<p>⑥ ⑤ ④ ③ ② ①</p> <p>国 明 救 無 加 良</p> <p>立 暗 助 料 熟 薬</p> <p>計 数</p> <p>算 字</p> <p>市営↑市が営む</p> <p>市立↓市が立てた</p> <p>県立↓県が立てる</p>	<p>⑥ 主語と述語の関係</p> <p>(例) 市立↓市が立てた</p> <p>⑤ 意味が逆の関係</p> <p>(例) 左右 「上下」 「夫妻」 「強弱」</p> <p>④ にた意味どうしの関係</p> <p>(例) 絵画 「森林」 「思考」 「寒冷」</p> <p>③ 打ち消しの関係</p> <p>(例) 市立↓市が立てた</p> <p>② 下から上の関係</p> <p>(例) 市立↓市が立てた</p> <p>① 上から下の関係</p> <p>(例) 市立↓市が立てた</p>	<p>めあて</p> <p>③ 打ち消しの関係</p> <p>② 下から上の関係</p> <p>① 上から下の関係</p> <p>復習</p>	<p>熟語の構成と意味</p> <p>熟語はどんな漢字の構成でできているか</p>
---	---	---	---

11. 本時の展開

	児童の活動・反応	指導内容・留意点	支援と評価
導入	<p>①前時で学習した三つの熟語のパターンについて思い出す。</p> <p>②本時のめあてについて確認する。</p>	<p>①前時の内容についてふりかえる。</p> <p>1) 上から下の関係</p> <p>2) 下から上の関係</p> <p>3) 打ち消しの関係</p> <p>②めあて「熟語はどんな漢字の組み合わせによってできているか考えよう」</p>	
展開	<p>③説明を聞き、プリントで確認を行う。</p> <p>三つの型について学び、問題を解く。</p> <p>自身の考えを元に、ペアで交流する。</p> <p>④熟語パズルの活動を行う。</p> <p>⑤答え合わせをしながら、六つの型について確認する。</p>	<p>③三つの熟語の構成の型について説明する。</p> <p>1) 「似た意味をもつ漢字を組み合わせた熟語」</p> <p>「絵画」を例に挙げ、説明する。</p> <p>その後、選択肢の中から漢字を組み合わせた熟語を作る活動を行う。</p> <p>2) 「意味が対になる漢字を組み合わせた熟語」</p> <p>「左右」を例にだし、実際に右、左を向かせた後に、一つの漢字を提示し、対の意味になる漢字を考え、熟語を作る活動を行う。</p> <p>3) 「主語・述語の関係になっている熟語」</p> <p>主語、述語の意味を確認し、例を提示する。(市立)</p> <p>④六つの型を確認し、「熟語パズル」の活動を行う。ペアごとにパズルを行い、作った熟語がどの型に当てはまるか考え、相談する。</p> <p>⑤全体の交流をし、六つの型を確認する。</p>	<p>・熟語を構成する漢字どうしの関係や文脈から、意味や読みを考え、自分の言葉で説明したり分類したりできる。(思考・判断・表現)</p> <p>・熟語の成り立ちや意味の広がりに関心を持ち、活動に意欲的に参加している。(主体的に学習に取り組む態度①)</p>
まとめ	<p>⑥本時の授業についての振り返りを書く。</p>	<p>⑥振り返りのポイントを伝える。</p> <p>・熟語にはどんな違いがあるか。</p> <p>・どのような部分が難しかったか。</p>	<p>・熟語の構成を理解し、説明できるようになる。(知識・技能)</p> <p>・熟語の持つ構成の違いを理解しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度②)</p>